

令和7年度 学校関係者評価書(様式)

鈴鹿市立平田野中学校

NO. 1

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標 (指標はすべて肯定割合)	成果と課題	今後の改善点	学校関係者評価
学力向上×ICT活用	<p>◆授業改善</p> <p>①「めあて」と「振り返り」の提示による分かりやすい授業づくりを進める 「めあて」があると授業が分かりやすい 「振り返り」があると授業が分かりやすい 90.0%以上</p> <p>②「学び合いの場」の設定による授業理解を促進する 「授業では、自分の考えや疑問を発言がし安い雰囲気がつくられている」85.0%以上</p> <p>◆ICT活用</p> <p>①ICT機器を効果的に活用した授業づくりを進める ICT機器を使用した授業は分かりやすい 85.0%以上</p>	<p>◆授業改善</p> <p>①授業において「めあて」は明示されており、「振り返り」についても可能な限り授業時間内に取り組んでいる。 「めあて」があると授業が分かりやすい 1学期86.9%→2学期91.2% 「振り返り」があると授業が分かりやすい 1学期83.9%→2学期86.1%</p> <p>②授業において、積極的に「学び合いの場」が設定されている。 「授業では、自分の考えや疑問を発言がし安い雰囲気がつくられている」 1学期76.5%→2学期81.3%</p> <p>◆ICT活用</p> <p>①端末の利用は確実に定着している。 ICT機器を使用した授業は分かりやすい 88.5%</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「めあて」「振り返り」が学力向上につながっていないことがある。 「学び合い」の相手が固定されており、多様な考えに触れる機会となっていないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「めあて」「振り返り」が学力向上に反映できるように、「めあて」の設定や、「振り返り」の方法について、改善していく。 「学び合い」の場の設定を見直し、多様な考えに触れる機会を増やすことで、自分自身の思考を深められるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を学習としてのツールから社会生活でも活用できるツールへの使いこなしができるとよい。 授業で学んだことを定着させるためにも、家庭学習の習慣をつけることが大切。 わかりやすい「めあて」は、授業内容を理解する上での道標となるのでよい。
長期欠席対策	<p>◆不登校の未然防止</p> <p>①欠席連続3日間の生徒に対する家庭訪問を実施する</p> <p>②学校に登校するのが楽しいと感じる生徒の増加を目指す 学校に登校するのが楽しい 85.0%以上</p> <p>③特別支援相談部会の活性化 情報の共有を部会だけに留めず、全職員で行う。</p> <p>④外部機関との連携強化 必要に応じて、外部機関との連携を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問は随時行っており、生徒との面談ができていくことがほとんどである。 「学校に登校するのが楽しい」肯定的回答割合81.3% 「子ども支援シート」を活用し、具体的な手立てについて特別支援相談部会で情報共有し、その内容を学年会で共有できている。 必要な場合に教育支援課、子ども家庭支援課と情報共有を行い、支援会議を開くことができている。 生徒によってはきらめき教室の活用が進み、欠席日数を減らすことができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校に登校することが楽しいと思えるような雰囲気づくりを継続していく必要がある。 まだまだ不登校生徒の数は多いので、継続して支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 登校した生徒が安心できる環境を整え、登校することが楽しいと思えるような雰囲気づくりを継続していく。 欠席が続いた場合は、積極的に家庭訪問を行い、生徒の内にある不安要素を取り除けるよう働きかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期欠席の生徒へは、学校の授業内容を随時配信したり、おたより等で知らせ、気持ちを整った時にすぐに登校できる環境を作してほしい。 情報を共有して、支援の強化をお願いしたい。 「学校に来るのが楽しい」81.5%以外の生徒への支援をどのように行うのが難しい。 少しずつ学校へ来られるように対策されていると感じる。
地域連携	<p>◆家庭・地域・学校が一体となった教育活動の推進</p> <p>①地域に開かれた学校づくりを進める 生徒の様子を見る機会が十分にある 85.0%以上</p> <p>②学校情報の家庭・地域への発信を強化する 学校からの情報を積極的に発信している 85.0%以上</p> <p>③地域行事への参加の促進する 清掃活動や地域イベントへの参加を呼びかける</p>	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭・文化祭を公開するだけでなく、年3回の授業参観時には、多くの保護者が来校し、生徒の様子を見ていただくことができた。 学校だよりをこまめに発行し地域にも回覧でき、また、ホームページもできるだけ毎日更新することで、学校の様子を積極的に発信することができた。 学校からの情報を積極的に発信している 91.7% <p>(課題) 地域の清掃活動等の行事への参加を呼びかけ、参加した生徒もいるが、それほど多くの生徒が参加できていない現状がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事への参加が少ない現状を改善するため、これまで以上に呼びかけを行い、自分も地域の一人であることの自覚を芽生えさせたい。 学校だよりやホームページを通じて、学校の情報はこれまで同様、積極的に発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭や文化祭を地域の方に見ていただく機会があるとよいのではないかと、小学生から中学生へと成長している姿を見ていただけるとよい。 体育祭や文化祭を拝見すると、みんなが積極的に行動しているし、成長を感じることができた。 公民館の行事に生徒の参加の場があるとよい。 情報発信は、適時適切に取り組みまれて効果的な伝達が図られている。 地域のイベント等への参加は呼びかけだけでなく、参加の目的・意義を生徒へ浸透させ、自主的な活動の結び付ける取り組みが重要。
非認知能力育成	<p>◆非認知能力の育成</p> <p>①ぐっしょぶさん(いいとこみつけ)の取組を進め、生徒の自己肯定感を高める</p> <p>②生徒支援の立場で指導にあたり、生徒の自制心を育てる</p> <p>③ICTを活用した個別最適化の促進や、生徒への適切な声掛けを行い、あきらめずに取り組む姿勢を育てる</p> <p>④「学び合い」を通して、互いに協力する姿勢を育てる 指標：教委の「非認知能力アンケート」の否定的回答割合 「やりぬく力」「自制心」「自己肯定感」10%未満 「社会性」1.8%未満</p>	<p>①「いいとこみつけ」を継続して実施していることで、少しずつ自己肯定感の上昇がみられた。 「自分に満足している」肯定的割合 6月51%→11月58% 自己肯定感に関する質問に対する否定的割合も減少している。</p> <p>③授業改善により最後まで取り組みやすくなる工夫を行ったことで少しずつ成果が出てきている。 「最後までやり抜く」肯定的割合 6月74%→11月78.2%</p> <p>④「互いに助け合い」肯定的割合 6月97.2%→11月95.7%</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒を支援する方向で教員が取り組んでいるが、「自制心」に関する質問の否定的割合は6月→11月で微増している。 「自制心」「自己肯定感」「社会性」については、目標とする指標に達していない。 「自制心」14.1% 「自己肯定感」15.6% 「社会性」2.5% 	<ul style="list-style-type: none"> 「いいとこみつけ」が予定調和化しないようにする。 「自分に満足している」生徒の割合を今年以上に増やしていく。そのための「いいとこみつけ」や教師からの声掛けなどを工夫していく。 「自制心」の否定的割合を減少させるための取組を考え、実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分でも気づけない自分の良いところを他社に認めてもらうことで、自己肯定感がアップすると思うので、いいところみつけを続けていってほしい。 途中であきらめない精神をどう育てるか。
教職員の働き方改革	<p>◆総勤務時間の縮減</p> <p>①360時間/年、45時間/月を超える時間外労働年間延べ人数を昨年より減らす(昨年12月末 360時間/年:6名、45時間/月:48名)</p> <p>②時間外労働 昨年より減らす(昨年平均:月29.17時間)</p> <p>③休暇取得 昨年より増やす(昨年平均:年間14日)</p> <p>④定時退校日を週2日設定し退校できる職員の割合90%以上</p> <p>⑤放課後開催の会議 60分以内に終了する割合75%以上</p>	<p>①45時間/月のべ人数は、65人から40人に減らせることができた。</p> <p>②時間外労働時間の月平均は、32.4時間から27.1時間にすることができた。</p> <p>④定時退校日に定時退校できた職員割合は、63.3%から90.2%に大幅に改善できた。</p> <p>⑤60分以内に終わる会議の割合は、43.6%から60.0%と増加した。</p> <p>教育DXに基づき、端末をうまく活用したり、班研修時の校時を工夫したりすることで、時間外勤務時間を減らせている。しかし、今後は新しい授業を作っていくうえで、教材研究の時間をいかに工夫していくかがポイントとなると思われる。</p> <p>(課題)</p> <p>③休暇取得日数は、平均15.9日から14.6日と、改善できていない。 部活動に従事するため、長期休業中もそれほど休暇が取れていない現状がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の研究発表に向けて、授業改善の取組などで時間を必要とすることが想定できるので、見直しを立てて計画的に取り組めるようにする。 「チーム学校」として、互いに協力し合える雰囲気になることを意識し、休暇が取得しやすい環境となるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生方が心身ともに元気であることが生徒たちへの教育の質的向上や温かい見守りに直結すると思う。 休暇を取りやすくし、リフレッシュする時間を大切にしてほしい。 先生の働き方改革は必要だが、時間の余裕がないなどの理由で生徒を見捨てることのないようお願いしたい。 工夫は必要だが、授業が1限だけで終わりという日があり、自転車で片道30分以上かけて通学している生徒がいるのはかわいそうかなと思う。